

スマトラ島沖地震で医療活動

米田 哲さん
県立小児医療センター医師

早期支援の 重要性実感

インドネシア西部スマトラ島・岡山市)の日本からの第2次
沖で9月30日に発生した地震
で、県立小児医療センター(渋
川市北橋町下箱田)の医師、米
田哲さん(30)は、特定非営利活
動法人アムダ(A.M.D.A、本部
・岡山市)の日本からの第2次
医療チームに加わり、現地で医
療活動に携わった。中心都市パ
ダンからやや離れた農村部の被
災地、パリアマンで大勢の住民
の診療に当たった。

風邪や肺炎、
食欲不振：
チームで1日200人診療

地震のマグネチユード
(M)は7・6で、約12
00人が死亡した。

A.M.D.A第2次医療チ
ームは医師・看護師ら5人
で、今月4日に日本を出発。
5日から13日まで被災地で
活動し、15日に帰国した。
実質8日間で約1130件
を担当した。

派遣先は、現地NGOが
選んだ医療の届きにくい地
域で、建物や道路の激しい
破壊は少ない場所だった。
「住民の顔色は悪くなかつ
た」と、安堵して活動を始
めた。

現地の医師と協力し、5
人前後で1日100〜20
0人を診療した。高齢者が
多く、風邪や肺炎、持病の
悪化、不眠や食欲不振の訴
えなどが多かった。「軒先
での生活が多く、避難所の
ように1方所に人が集まら
なかったことで、感染症が
広がらなかったのが幸いし
た」と分析した。

現地の医療機関が機能
し、医師の現場復帰も進ん
だため、支援活動を終了し
た。「外傷のある患者は思
ったより少なかったが、早
い段階での支援が重要だと

感じた。定期的に医療機関
に通う人がもともと少ない
地区で、『来てくれてあり
がとう』と言われ、帰る時
はみんなが笑顔になった」
と感慨深そうに振り返っ
た。

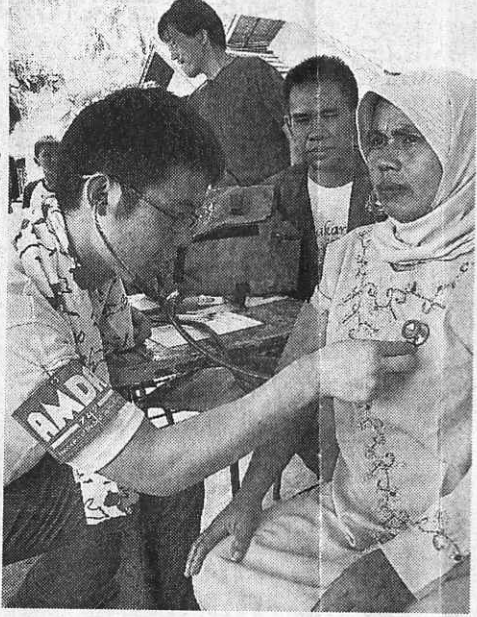
今回の診療で病気が見つ
かった人もいて、米田さん
は「手伝えて良かった。現
地のためになっているかを
考えながら、これからもで
きる限り参加したい」と意
欲を見せる。

A.M.D.Aは主にアジアや

中南米での災害や紛争に、
30カ国にある支部のネット
ワークを生かし、多国籍医
師団を結成して緊急支援活
動を展開している。スマト
ラ島沖地震の募金も受け付
けており、口座名と番号は
「特定非営利活動法人アム
ダ O1265012140
7069」。



© 上毛新聞社 2009年
発行所(〒371-8666)
前橋市五市町1-50-21
上毛新聞社
電話 市外局番(027)
(総機)254-9933 (広機)254-9944
(留機)254-3131 (本機)254-9955
(印刷)254-9985 (出版)254-9966
(FAX)254-9881 (発送)254-9984
(総機)254-9977 (総合)254-9911



現地で医療活動する米田さん